

# 目標・指標の妥当性評価について

今回目標・指標を設定するにあたり、妥当性の評価をしております。

「連続性」「客観性」「目的性」「改善性」の4種類で評価しています。

なお、総合評価は次の計算式で求めています。

$$\underline{\text{(連続性+客観性)} \times 0.8 + \text{(目的性)} \times 0.6 + \text{(改善性)} \times 0.3}$$

# 連続性の評価



- 測定する数値が定期的に測定できるものかどうか評価を行う。
- 毎月～毎年測定できる指標については高い点数になります。
- 数年に一度・不定期の指標については低い点数になります。

4	年1回以上測定可能である
3	2年に1回測定可能である
2	3年～5年に1回測定可能である
1	不定期の測定である

# 客観性の評価



- 測定する数値が客観的なデータに基づいたものかどうか評価を行う。
- 国の統計データや誰が集計・測定しても同じ数値になる場合は高い点数になります。
- 集計・測定した人による数値が異なる場合や、集計・測定方法が定まっていない場合は、低い点数になります。

4	統計データ等
3	数値化可能で基準が明確
2	数値化可能だが基準が曖昧
1	数値化が難しい

# 目的性の評価



- 次の観点から評価を行う。
  - 指標が施策の目的に合っているかどうか
  - アウトカム指標なのかアウトプット指標なのか
- アウトカム指標は、行政活動の結果として市民にもたらされた便益を表す客観的な指標
- アウトプット指標は、「行政活動そのものの結果」を表す客観的な指標

4	アウトカム指標かつ直接的指標
3	アウトプット指標かつ直接的指標
2	アウトカム指標かつ間接的指標
1	アウトプット指標かつ間接的指標

# 改善性の評価



- 測定した数値結果をもとに、改善行動につながるかどうか評価を行う。
- 目標よりも下回る数値結果となった場合に、市として改善するための行動ができる指標の場合は、高い点数になります。
- 目標よりも下回る数値結果となった場合に、市として改善するための行動ができない指標の場合は、低い点数になります。

4	明確に改善行動につながる
3	改善行動につながりやすい
2	改善行動につながりにくい
1	改善行動につながる見込みがない